

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

油売ってる場合ではない？

<ポイント>

◆昨日は、欧米株高や原油などコモディティ価格の大幅上昇を受けて、豪ドルなどコモディティ通貨が続伸したほか、ブラジルリアルなど新興国通貨も上昇した。FOMC 議事要旨がタカ派的な内容とならなかったことも下支え要因となった。他方、こうしたリスクオン環境の中で米中長期債利回りが上昇したにも拘らず、ドル/円は全般的なドル安傾向の中で軟調に推移した。

◆本日は、豪 8 月住宅ローン(10:30)、カナダ 9 月雇用統計(21:30)、ロックハート・アトランタ連銀総裁発言(22:10)、エヴァンズ・シカゴ連銀総裁発言(2:30)、などしか予定されていない。

◆本邦休場の 12 日(月)も、ロックハート・アトランタ連銀総裁発言(21:10)、エヴァンズ・シカゴ連銀総裁発言(23:30)、ポロズ・カナダ中銀総裁発言(2:05)、ブレイナードFRB 理事発言(5:30)、ローRBA 総裁補発言(6:40)などしか予定されておらず、来週初にかけて非常に材料が少ない。こうした中、ドル/円やユーロ/ドルは直近レンジ内でややドル弱含み方向が続くと見られる一方、豪ドルはコモディティ価格睨みの展開で、原油などが続伸し直近高値を超えると 0.73 ドル台乗せが視野に入る。

昨日までの世界:原油高とドル全面安

ドル/円は、本邦株価の下落もあって欧州時間にかけて今週 6 日以降のじり安傾向が続き、一時 119.63 円の安値をつけた。その後、米新規失業保険申請件数が 26.3 万人と市場予想を大幅に下回る良好な結果となったこともあって 120 円方向へ小反発した。米 FOMC 議事要旨では、声明文と同様に早期利上げ慎重姿勢が改めて示され、タカ派的な内容とならなかったことを受けて、米 2 年債利回りは低下したこと、ドル/円も一時的に 120 円台を回復したものの、119 円台後半で引けた。

ユーロ/ドルは、最近のドイツ経済指標の軟調に続き、昨日もドイツ 8 月輸出が前年比-5.2%とマイナス幅が予想以上に拡大したがユーロは下落せず、むしろ欧州時間入りには上昇し 1.13 ドル台をつけた。その後、ECB 議事要旨が発表され、追加緩和に慎重姿勢が示されたものの、12 月の市場流動性低下に備えて債券購入を幾分前倒する方針が示されたことから、ドイツなど欧州債券利回りが低下しユーロも再び 1.12 ドル台前半へ反落した。米 FOMC 発表後は、タカ派的な内容とならなかったことを受けてドル安となり、一時 1.1327 ドルの高値をつけたが、すぐに反落し 1.12 ドル台後半で引けている。

ユーロ/円もユーロ/ドルと同様に、欧州時間に 135 円台へ上昇した後、一時 135 円を下回る局面もあったが NY 時間には再度 135 円台を回復して引けている。

豪ドル/米ドルは、アジア時間は前日 NY 時間の原油価格反落の影響を受けて 0.71 ドル台後半へ軟化した。もっとも、NY 時間に原油価格が再び大きく上昇すると、0.72 ドル台を回復し 0.7272 ドルの高値を

つけた。

豪ドル/円も、アジア時間に一時 86 円割れとなったものの NY 時間には大幅反発し 87.19 円の高値をつけた。

きょうの高慢な偏見：油売ってる場合ではない？

[今週の見通しはこちら\(10月2日付FX戦略ウィークリー\)](#)

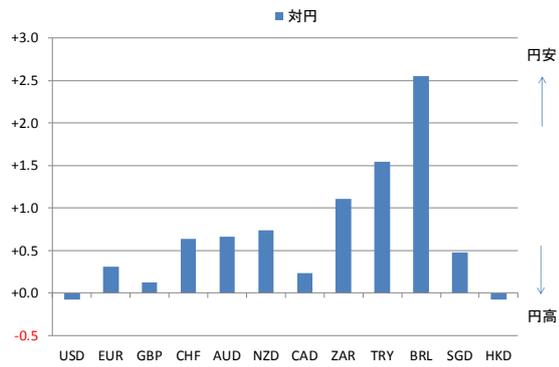
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、本日から来週初にかけて材料が少ない中で、9月以降の119-121円のレンジ内ながら、米利回りとの連動性が不明瞭になっており、ドル相場の全般的な動向に左右されやすい展開となりそうだ。特に原油の反発基調が特徴的で、コモディティ価格続伸・ドル安となる場合、ドル/円も影響を受け119円台半ば方向へ弱含みとなりそうだ。

ユーロ/ドルはECBから追加緩和に関する明確なスタンスが示されない中で、1.11-1.13ドルのレンジ内ながら、全般的なドル安傾向の中でやや強含みの展開が続き、昨日のように1.13ドル台に乗せる局面もありそうだ。

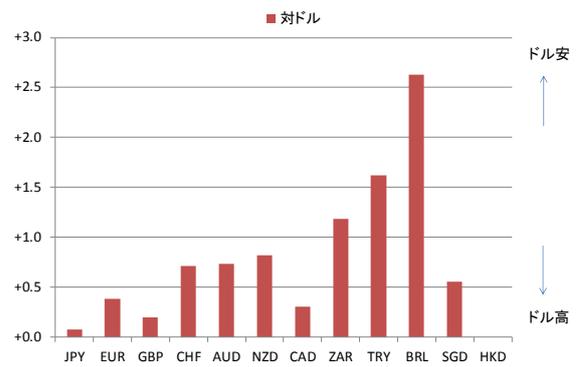
豪ドル/米ドルは、コモディティ価格睨みの展開で、原油などが続伸し直近高値(9月18日の0.7280ドル)を超えると0.73ドル台乗せが視野に入る。0.73ドル台では日次一目均衡表の雲の上限が0.7318ドル程度にあるが、そこを抜けると下落トレンドの転換の可能性が示唆され、0.74ドル台まで短期的に続伸しやすくなる。

主要通貨の対円相場(前日比%)



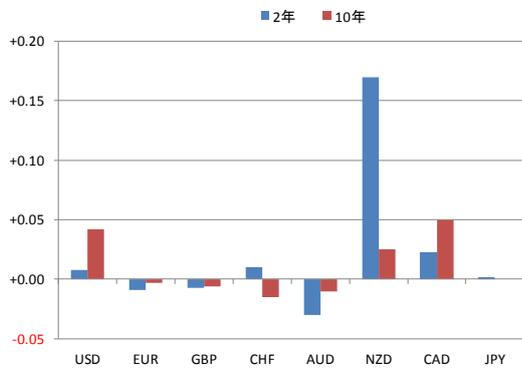
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



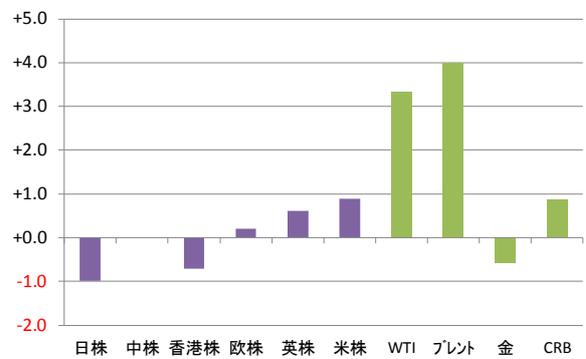
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会